wizefloor JP
move | play | educate

【導入事例】

インクルーシブ保育と集中力向上を両立
Wizefloorが叶える統合的アプローチ



プリスクール マザーリング
真渕和彦さん・真渕衣さん・本田知昭さん

イントロダクション

　プリスクール マザーリングは有限会社フランダースが運営する さいたま市にあるプリスクール。２０２５年にWizefloorを導入していただき、学習をはじめとした幅広い側面で保育・教育活動に寄与しているという。

　今回は実際に園のお子さんがWizefloorを使って学習する様子を見学させていただき、前代表取締役の真渕和彦さん、前取締役の真渕衣さん、そして２０２６年に運営を引き継がれた 代表取締役の本田知昭さんにお話を伺った。



導入の目的、マザーリングの理念について

-- 最初に、Wizefloorに期待していたことや導入の目的についてお聞かせください。

真渕（和）さん：
　インクルーシブ保育も兼ねてできるという点が一番期待していた部分です。今後、支援が必要なお子さんをお預かりすることになった際にも、非常に楽しめる教材だろうということで、全国の保育園の中でもかなり先駆けて取り入れたという経緯があります。

-- 普段の保育活動において大切にされていることについて教えてください。

真渕（和）さん：
　子どもたちは朝から夜まで過ごしていますので、とにかく1日を「安全に、楽しく過ごさせる」ということです。また、当園（マザーリング）の基本的な理念として「しつけと学習」という部分に落とし込んでいます。ただ楽しいだけでなく、最終的には「何か学んだな」「学習できたな」という成果を子どもたち自身が得られるようにしたい、という思いがあります。それは強制して勉強させるということではなく、子どもたちが楽しんでいるうちに「最終的に覚えてしまった」というニュアンスを大切にしたいと考えています。



教材準備と現場のスキル

-- 日々の保育活動における、Wizefloorのコンテンツ準備にかかる負担はいかがでしょうか？

真渕（和）さん：

準備時間としましては5分ほどで準備は完了致します。一度プレイ画面に載せてしまえば、現場の先生はすぐに使えますので、日常の準備自体には時間がかからず、負担も少ないです。ただ、子どもたちの年齢や発達段階に合わせて、（クラウドコミュニティから）どのコンテンツを選ぶか、という選択の段階では少し工夫が必要ですね。そのため、コンテンツの選定が得意な先生が1人 担当としてつく形にするのが良いと感じています。



-- Wizefloorを運用する上で、保育者側のスキルとして必要なものはありますか？

真渕（和）さん：

機械なので、（起動時など）「待っている時間」に子どもたちを飽きさせないコミュニケーションスキルが求められます。
先ほども、先生がひらがなのクイズをパッと出していましたよね。ああいった機転を利かせられるかが保育士のレベルであり、大事な部分です。ただIT機器を扱うだけでなく、子どもをいかに楽しませるかというソフト面（コミュニケーション）が一番重要です。
あえてクイズにするのも1つの学習です。語彙やボキャブラリーも増えていきますし、1分1秒を無駄にせず学習に落とし込むのが当園のポリシーです。

大切にしている教育メソッド

-- 小学校入学へ繋げるための「準備段階」として大切にされている教育メソッドはありますか？

真渕（和）さん：

当園では「モンテッソーリ教育」「シュタイナー」「七田式」「公文」「steam教育」等さまざまな教育メソッドを取り入れています。モンテッソーリの「お仕事（手先やを使うなどして集中力を高める活動）」を通して、2歳頃までに集中力と座れる姿勢を育んでおきます。その上で、3歳からこういったWizefloorなどの学習プログラムに入っていくという、成長段階を踏んだカリキュラムを構築しています。



Wizefloorのコンテンツについて

--Wizefloorに準備されているコンテンツについてはいかがでしょうか？

真渕（和）さん：
最初はサッカーをやってみて、反応がとても良かったんです。保護者の方が集まる機会があって、お子さんたちと交えてやってみたら、大人も真剣にやるんですよ。そうした「遊び」のコンテンツがあり、一方で「学習」のコンテンツも同時並行でやるんです。全部遊びでも良くないし、かと言って学習だけでも不完全燃焼になってしまう。学習と遊びをバランスよく両立できるところがいいですね。

-- 先ほどお子さんたちに「どのゲームが好き？」と聞いたら、「ぜんぶ好き！」と答えてくれました。

真渕（和）さん：
　それはすごい進歩ですね！普通ならサッカーなどの運動系を挙げるかと思ったのですが、学習系も含めて「全部好き」と言えたのは本当に成長です。子どもたちは「勉強させられている」という感覚は一切なく、ただ「遊びに来ている」という感覚で夢中になっている。楽しませて最終的に学習に落とし込むという狙い通りになっています。



Wizefloorで育まれるもの（1/3）

-- Wizefloorでの協力プレイやコミュニケーション面での効果はいかがでしょうか？

真渕（衣）さん：
　当園は英語やプログラミングなど「個人の能力を高める学習」に力を入れているため、どうしても個の活動が多くなりがちです。その中で、Wizefloorのように「みんなで協力する」「チームでやる」というコンテンツは、協調性を育む上で非常に役に立っています。どうしても学校や社会に出ると「自分さえ良ければいい」となりがちですが、社会では協力しないと回っていきません。子どもの頃からチームで協力する体験ができるのはとても貴重だと実感しています。

-- 友達と交わるのが苦手というお子さんはいらっしゃいますか？

真渕（和）さん：
　いますね。でもWizefloorの前に立つとそうした壁がなくなっていくのがこのツールの強みです。仲間はずれになることなく、一体感が生まれますよね。友達同士で「これはこうだよ！」と教え合ったり、順番交代や譲り合いのルールを学んだりしています。普段はお友達の輪に入るのが苦手な子や、少し多動傾向があって集中が難しい子でも、Wizefloorが始まるとグッと集中して輪に入っていける。これは大きな強みです。



Wizefloorで育まれるもの（2/3）



--本日もWizefloorの活動中に教え合ったり、順番を待っているときに、みんなリラックスして座り、応援している姿がありました。

真渕（和）さん：

　現在は、どの園でもいわゆるグレーゾーンのお子さんが在籍されていると思います。そうした課題があるなかで子どもの集中力を高め、一体感を持たせ、子ども同士の協力体制を持たせることが重要ですね。また、今までじっとしていなくてもよかった子どもが、小学校に入った途端に「座ってじっとしていなさい」と言われるわけですから、就学前からこうした準備は必要ですし、Wizefloorはこうした幅広い課題に間違いなく活用できます。

Wizefloorで育まれるもの（3/3）

--「運動」という観点ではいかがでしょうか？

真渕（和）さん：
　当園は認可保育園のような園庭がありません。そのため、毎日近くの公園まで外遊び（アウトドア）に行きます。往復30分近く歩いて毎日移動することを5年間続けています。日常的に歩いているので、脚力や体力が同年代の子と比べて桁違いにあります。そのためWizefloorで体を動かす活動も、活発に楽しんでいますね。

--学習に力をしていらっしゃるというイメージでいたのですが、体力面も重んじていらっしゃるんですね。

真渕（和）さん：
　ただ「頭がいい」だけでは不十分です。学習に特化している園はたくさんあるのですが、しつけ と学習が重要です。アウトドアで公園に行き、先に遊んでいる子たちとの間で
「かして」「いいよ」「どうぞ」
とコミュニケーションを取る必要があります。それは、当園の子どもたちのルールです。



保護者の反響・SNSでの共有と今後の展望



--保護者の方からの反響や、園の魅力化（ブランディング）という面での手応えはいかがですか？

真渕（和）さん：
　保護者向けの見学会や年2〜3回のイベントでも実際に見ていただいていますし、毎日の活動の様子は公式X（旧Twitter）にも写真を投稿しています。
保護者の方も「今日うちの子はこんな活動をしてきたんだ」と毎日把握できるので、非常に安心されていますし反響も大きいです。他園の園長先生方が見学に来られた際も、「子どもたちのレベルが高い」とよく褒めていただけます。

--今年から経営を引き継がれたとのことで、Wizefloorはどのようにご覧になっていますか？

本田さん：
　私は今年から着任しましたが、以前はIT系の会社を２０年ほど経営していました。もともと教育者の家系だったので、最後の仕事と考えた時に「人を育てる」ことをやりたいと思いました。Wizefloorは体全体を動かすことと同時に脳が動くので、知識の吸収力やパワーがすごいなと実感しています。

おわりに



左から
有限会社フランダース 取締役社長　本田知昭さん、前 取締役　真渕衣さん、
前 代表取締役　真渕和彦さん

--最後に、Wizefloorの導入を検討している他の保育園・幼稚園の先生方へメッセージをお願いします。

真渕（和）さん：

　昨今重視されているインクルーシブ保育において、どんなお子さんでも みんなが集中して一体になれる環境が作れます。先生方にとっても「この子ってこんなに集中できるんだ！」という新しい発見や気付きがたくさん生まれるはずです。全国の幼稚園・保育園・子ども園に、ぜひ導入をおすすめします。

特設ページへ